



2014年（平成26年）6月 9日

お知らせ

資料提供先：浜田記者クラブ
江津記者クラブ

◇◆水生生物による水質の簡易調査を実施します◆◇
(子供たちといっしょに川にすむ生き物で水質調査)

国土交通省浜田河川国道事務所は、**平成26年6月11日（水）から7月30日（水）の間、江の川において水生生物による簡易調査（小中学校生による）を実施**します（小雨決行）。これは川底の生物を採取して頂き、その種類や数を調べることで川の水質を簡単に知ってもらうのが目的で実施するものです。

なお、実施日時については別紙の図のとおり、7箇所で行います。

問い合わせ先：国土交通省 浜田河川国道事務所

	副所長（河川）	<small>みちなか</small> 道中	<small>みつぎ</small> 貢
（担 当）	建設専門官	<small>ほそだ</small> 細田	<small>よしお</small> 佳男
（広報担当）	調査設計課長	<small>もりやま</small> 森山	<small>やすと</small> 泰人

TEL 0855-22-2480（代表）

URL <http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/>

水生生物調査の概要

1. 実施目的

河川の中には、さまざまな生物が、それぞれに適した環境のもとで生息しています。特に、川底に生息する生物は、水質の影響を受けやすく、長時間にわたって一定の場所に生息しているため、川の水質状況を的確に反映しています。

この「水生生物による水質の簡易調査」は、皆さんに水遊び感覚で川底の生物を採取して頂き、その種類や数を調べることで川の水質を簡単に知ることができます。また、調査をとおして川を身近に感じてもらい、河川愛護・水質浄化などへ関心を持って頂ければと考えております。

この調査は、昭和59年より全国の1級水系で行っており、毎年この時期に、小・中学生に参加して頂き実施しています。調査を重ねる毎に、河川に関心を持つ人が増えてきたものとうれしく思っております。今後も更に多くの方々の参加を得て、この調査を継続して実施し、川に親しんで頂きたいと考えております。

2. 実施箇所日時

美郷町都賀西	平成26年6月11日(水)	13:50	(大和小学校 9名)
江津市松川町市村	平成26年6月13日(金)	10:00	(郷田小学校 31名)
美郷町粕淵	平成26年6月19日(木)	14:00	(邑智中学校 25名)
江津市桜江町川戸	平成26年6月24日(火)	14:15	(桜江小学校 15名)
江津市桜江町川戸	平成26年7月 2日(水)	10:40	(桜江中学校 21名)
川本町上三島	平成26年7月 4日(金)	13:30	(川本中学校 21名)
美郷町長藤	平成26年7月30日(水)	13:00	(大和中学校 6名)

() は、各学校の生徒さんの参加予定者数です。

※小雨決行(大雨、上流域の大雨による増水は中止)

3. 実施位置図 別紙図のとおり

4. 昨年の調査の様子



江の川の水生生物の採取



生物の種類分けと水質判定の様子

川の生きものを調べよう

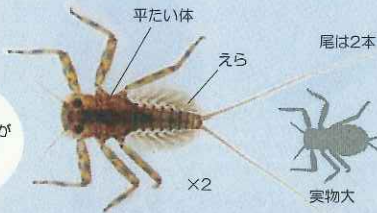
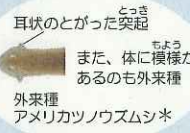
水生生物による水質判定

I きれいな水



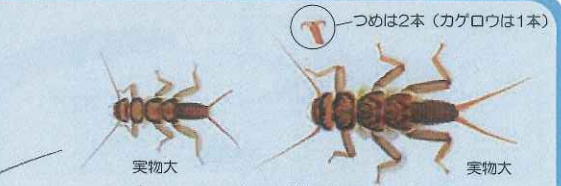
ナミウズムシ

石の表面にはりついていて、伸び縮みする
中・下流部には外来種がいることがある



ヒラタカゲロウ類

流れの速い石の表面にはりついている



カワゲラ類

体ががんじょうな感じがする
石の下やすき間にいる



サワガニ

体色は赤色、茶色、青白色のものがある、
同じ種類である



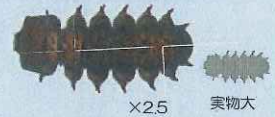
ヘビトンボ

流れの速い石の下にひそんでいて、
えものおそろ



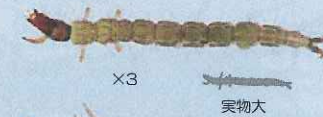
ブブ類

急流の岩や石に吸盤ではりついている
集団をつくり、石が黒く見えることもある



アミカ類

腹面に吸盤があり、急流の岩や石に
はりついている



ナガレトビケラ類

流れの速いところにいる



ヤマトビケラ類

流れの少しゆるやかなところの石面に多い



ヨコエビ類

上流の石の下や水中に
たまった落葉の間にいる



タニガワカゲロウ類

体はヒラタカゲロウ類に似ている
流れの速いところにいる

I, II 両方でみられる水生生物 (指標種ではない)

II ややきれいな水



カワナナ類

流れの少しゆるやかなところにいる
外来種のコモチカワツボ*は数mmと小型



コオニヤンマ

流れが少しゆるやかなところにいる



ヒラタドROMシ類

石の表面にはりついている



ヒゲナガカワトビケラ類

流れの速い石の間に網をはってえさを集める
体色は茶~黒色



ニンギョウトビケラ類

流れが少しゆるやかなところの
石面にいる



コガタシマトビケラ類

頭部の前縁に浅い凹みがある



ゲンジボタル

流れが少しゆるやかなところにいる
カワナナをえさとする



ゲンジボタル

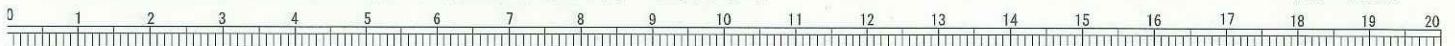
ハイケボタル*



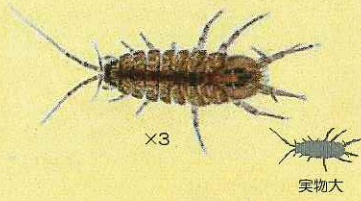
オオシマトビケラ

流れが少し速いところにいる

*のついている生物はよく似ていますが指標種（水質判定に使う水生生物）ではありません。



Ⅲ きたない水



ミズムシ

落葉のあるところではきれいな水にもいる



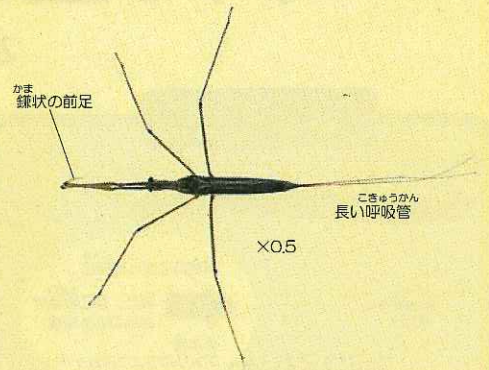
シマイシビル

背中に縦縞模様がある
伸びたり縮んだりする
尾の先に吸盤がある



タニシ類

流れのゆるやかなところにいる



ミズカマキリ

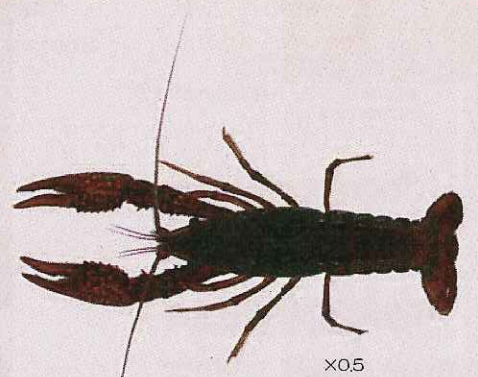
川では河岸の草の中などにいる

Ⅳ とてもきたない水



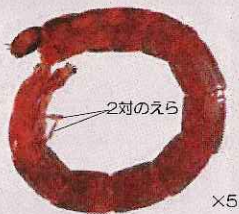
エラミミズ

尾部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる



アメリカザリガニ

北アメリカ原産の外来種
流れのゆるやかなところにいる



ユスリカ類

腹部に2対(4本)または1対(2本)のひも状のえらがある
瀬でみられる赤いユスリカはセスジユスリカやハイロユスリカが多い

サカマキガイ

多くの巻貝と違い、左巻き
流れのゆるやかなところにいる



チョウバエ類

尾部、腹部背面にかたい部分(キチン板)がある

汽水域(海水が混じっているところ)

Ⅱ ややきれいな水



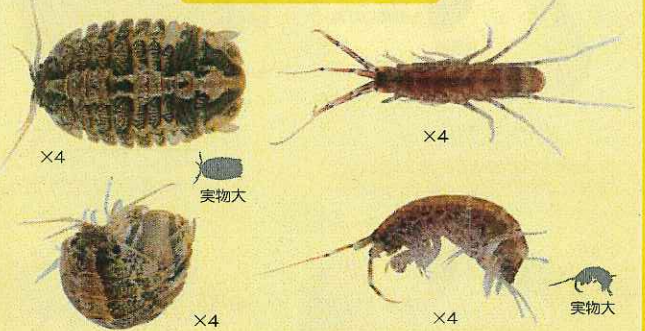
イシマキガイ

石や護岸にはりついている
淡水域にいることもある

ヤマトシジミ

砂や泥の中にいる
淡水域にはマシジミ*や外来種の
タイワンシジミ*がいる

Ⅲ きたない水



イソコブムシ類

石の下にいる
さわると丸くなる

ニホンドロソコエビ

泥の上や中にいる
河川の上・中流部にも淡水性のヨコエビ類がいる

*のついている生物はよく似ていますが指標種(水質判定に使う水生生物)ではありません。